

記載上の注意事項

1. 履歴書（様式1-1）

- ① **学歴**は、大学入学以降の学歴、卒後臨床研修歴、研究生などの研究歴を記入して下さい。
職歴には、給与関係を除いて下さい。なお、履歴の空白期間には、説明（自主研修等）をつけて下さい。研究歴及び教育歴には、所属講座・部門等まで記入して下さい。
- ② **免許及び資格**には、医師免許、歯科医師免許、認定医、専門医、指導医、標榜医等を記入して下さい。
- ③ **学位**には、授与された大学名も記入して下さい。また、大学院の課程修了による学位は大学名の後にAと、論文提出による学位はBと記入して下さい。
- ④ **学会活動等**は、所属の学会名、役職名等を記載して下さい。
- ⑤ **賞**には、学術活動による表彰を記入して下さい。
- ⑥ **年の表示**については、西暦で記入して下さい。（以下共通）

2. 業績目録（様式1-2）

- ① **A～F**の各項について記入し、医学教育学に関連するものの文頭に○印を付して下さい。（目録の1枚目から順に頁を付して下さい。）
- ② 目録**A～C**には、既に刊行されたものと、受理（accept）されて公刊予定となったもの（印刷中、in press）のみを記入して下さい。
（注1）記載は、欧文・和文に分けて、それぞれ発行年順に記入して下さい。
（注2）記載方法は、記載例を参照して下さい。本人には、アンダーラインを付して下さい。
（注3）共著者名は、業績に記載してある順に全員記入して下さい。
（注4）発表論文のインパクトファクター（IF、最新の値）を記入してください。
（注5）和文の業績については、それぞれ客観的に研究の質がわかるような短いコメントを付記してください。
A. 原著とは、著者の研究成果をまとめたもので、referee journalに記載された論文を指します。（注）学位論文に相当する原著の番号を○印で囲って下さい。
B. 総説には、展望・講座・解説等が含まれます。
C. 著書には、翻訳が含まれますが、その場合は（翻訳）と記して下さい。
- ③ **D. 知的財産・標準化規格に関するもの**について記入して下さい。
- ④ **E. 学会発表**については、**a. 特別講演・シンポジウム**等、**b. 一般発表**（最近5年間の発表総数と主要なもの10題以内）をそれぞれ欧文・和文に分けて年代順に記入して下さい。なお、講演要旨或いは抄録の掲載記録は、行末に括弧を付けて記入して下さい。
- ⑤ **F. 研究助成金取得状況**については、文部科学省（文部省）・厚生労働省（厚生省）・その他（共同研究費、受託研究費（治験含む）、財団等の助成金等）に分け、代表研究者か分担研究者の別、及び助成額（分担研究者の場合は分担配分額）を明記して下さい。

3. 自己紹介（様式任意）

経歴と研究を中心に、150字程度で記載してください。

4. 研究実績（様式任意）

現在までの研究（知財，企業との共同研究，診療を含む）の実績について，その経過と成果等を2000字程度で業績目録の論文リストとは別に記載して下さい。様式は任意です。

5. 教育実績（様式任意）

教育に関する研修歴，主な講義内容，教務・厚生補導等に関する委員歴等その他教育に関する経験，実績等について2000字程度で記載して下さい。

（注1） 学内で担当した講義内容に加え、医学教育の観点から所属学部レベルでの教育活動（所属大学と他大学の教育交流事業などを含む）に寄与した教育実績について記載してください。

（注2） 学外および国外で行われた、教育関連事業などの公的な教育活動における実績を記載して下さい。それぞれについて自身の役割について、事業への貢献が客観的にわかるようコメントを付記してください。

6. 応募理由書（様式任意）

（1） 応募理由及び今後の抱負について

中核研究部門環境健康科学講座医学教育学領域教授に応募された理由及び今後の抱負を，下記の観点を参考に3000字程度で記載して下さい。

（観点1） 今後，本学の医学教育において重点的に進めて行きたいこと。

（観点2） 世界最高水準の研究教育を展開する第3群の国立大学であることを謳う千葉大学で、研究マインドをどの様に醸成するか。

（観点3） グローバルな医学教育をどの様に推進していくのか。

（観点4） 千葉県の医療人材育成における医学教育の基本理念。

（観点5） 医学教育学分野の研究に関して，ご自身および医学教育学の教員が，欧米原著論文や競争的外部資金獲得も含めた実績をどのように重ねていくのか。

（観点6） ご自身が理想とする医学教育を推進していくうえで，教育を受ける学生や他の講座の医学部教員とどのように関わっていくのか。

（観点7） 個々の学部生の修学上の問題点等に関する情報を，教育に携わる他の全教員とどのように共有し活用していくのか。

（観点8） より良い倫理教育を進めるために重要な点と具体的な方策。

（観点9） より多くの医学部卒業生が千葉大学医学研究院や医学部附属病院で，研究、教育、診療に携わるための有効な方策。

（観点10） 医学部入試（より適した学生の選抜方法）あるいは卒後の動向（専門医取得等のキャリア形成等）などの情報をどの様に医学部教育に反映していくのか。

（観点11） 初期臨床研修，専門研修（シニアレジデント）をさらに充実させるための方策。

(2) 教授として研究，教育に関するコンプライアンスの方針と考えについて
400字程度で記載して下さい。

- (注) 1. 上記書類は，学内に公開されることがあります。
2. 上記書類は，原則としてA4版とし，ワード等を用いて作成して下さい。
3. 応募書類は返却いたしませんので，予めご了承ください。(責任をもって廃棄いたします。)

※CD-ROMの作成について

- (1) 上記の1. 履歴書，2. 業績目録，3. 自己紹介，4. 研究実績，5. 教育実績，6. 応募理由書を通しページとしたMS Wordファイル及びPDFファイル [ファイル名は「氏名(〇〇〇〇)応募書類. …」] をコピーして下さい。
(2) 主要論文10編以内のPDFファイルには，「氏名(〇〇〇〇)主要論文1.pdf」「氏名(〇〇〇〇)主要論文2.pdf」「氏名(〇〇〇〇)主要論文3.pdf」…の様に通し番号を振りつけて下さい。
(3) 主要論文の要約のファイル名は「氏名(〇〇〇〇)要約.pdf」として下さい。
(4) 推薦状のファイル名は「氏名(〇〇〇〇)推薦状.pdf」として下さい。

履 歴 書

ふりがな ち ば た ろう
 氏名・性別 千 葉 太 郎 (印) 男
 生年月日 1950年5月31日
 現住所 千葉市中央区亥鼻1-8-1
 電話番号 03-1111-1111
 Eメールアドレス ChibaTaro@rirekisho.ac.jp
 現職 千葉大学准教授大学院医学研究院 (〇〇学)

学歴及び職歴

1969年 4月 1日 千葉大学医学部入学
 1975年 3月 23日 千葉大学医学部卒業
 1975年 6月 1日 医員 (研修医) (千葉大学医学部附属病院〇〇科) (1976年 3月 30日まで)
 1976年 4月 1日 千葉大学大学院医学研究科博士課程 (〇〇系) 入学
 1980年 3月 25日 千葉大学大学院医学研究科博士課程 (〇〇系) 修了
 1980年 4月 1日 研究生 (千葉大学医学部〇〇学講座) (1982年 3月 31日まで)
 1982年 4月 1日 医員 (千葉大学医学部附属病院〇〇科) (1983年 3月 30日まで)
 1983年 4月 1日 文部教官 千葉大学助手医学部附属病院 (〇〇科)
 1986年 9月 1日 文部省在外研究員 (アメリカ合衆国ペンシルバニア大学医学部生理学講座) (1987年 6月 30日まで)
 1987年 12月 1日 千葉大学講師医学部附属病院 (〇〇科)
 1988年 4月 1日 厚生技官 (国立〇〇病院〇〇科医長)
 1990年 4月 1日 文部教官 千葉大学講師医学部 (〇〇学講座)
 2001年 1月 6日 中央省庁等の再編に伴い、文部教官は文部科学教官となった
 2001年 4月 1日 文部科学教官 千葉大学講師大学院医学研究院 (〇〇学)
 2004年 4月 1日 国立大学法人法の規定により国立大学法人千葉大学職員となった
 2004年 5月 1日 千葉大学助教授大学院医学研究院 (〇〇学)
 2007年 4月 1日 千葉大学准教授大学院医学研究院 (〇〇学)

免許及び資格 医師免許 (登録番号 123456 号) 19〇〇年〇月〇日
 第一種放射線取扱主任者 (登録番号 78910 号) 19〇〇年〇月〇日
 日本内科学会認定医, 日本循環器学会専門医

学 位 医学博士 (千葉大学A) 1980年3月25日

学会活動等 日本薬理学会評議員, 日本生理学会員, 日本神経科学会専門委員
 International Brain Research Organization 会員
 編集委員: 蛋白質・核酸・酵素, Journal of Biological Chemistry

賞 日本細菌学会黒屋奨学賞 (〇〇〇に関する研究, 19〇〇年)
 日本電子顕微鏡学会瀬藤賞 (〇〇〇に関する研究, 19〇〇年)

業 績 目 録

A. 原著

- ①. Chiba T. Electron microscope observations on the fusion of chick myoblasts in vitro. J Cell Biol. 1980;48:128-42. 【IF= 】
2. Inohana J, Nishichiba S, Chiba T. Acetylcholine sensitivity of skeletal muscle cells differentiated in vitro from chick embryo. Brain Res. 1987;25:216-9. 【IF= 】
3. Nishichiba S, Matsudo S, Chiba T. Isolation and culture of motoneurons from embryonic chicken spinal cords. Proc Natl Acad Sci USA. 1991;76:3537-41. 【IF= 】
4. Chiba H, Chiba T. Bader D. Molecular cloning and expression of chicken cardiac troponin T. Cir Res. 1996;65:1246-51. 【IF= 】
5. Hastings KEM, Koppe RI, Marmor E, Chiba T. Inohana J. Structure and developmental expression of troponin I isoforms. J Biol Chem. in press 【IF= 】
6. 亥鼻次郎, 西千葉三郎, 千葉太郎, 松戸四郎 食道癌手術視野からみた気管支動脈の走行に対する解剖学的検討. 日外会誌 1990;94:456-65.
7. 亥鼻次郎, 千葉太郎, 西千葉三郎 右開胸食道癌根治手術時における上縦隔リンパ節の郭清可能範囲に関する研究. 日消外会誌 1997;26:2134-9. 【IF= 】
8. 亥鼻次郎, 西千葉三郎, 千葉太郎, 松戸四郎 下肢刺激 SEP の随意運動による影響. 臨床脳波.

印刷中

B. 総説

1. Chiba T. Brain damage due to surgical injury to the cerebral vein. Clin Rev Neurosurg. 1996;3:191-5. 【IF= 】
2. 千葉太郎 FACS を用いた細胞間接触と Ca²⁺ シグナルの検索. 実験医学 1997;11:93-8.

C. 著書

1. Inohana J, Chiba T. Nishichiba S. mRNA turnover in Saccharomyces cerevisiae. In: Control of Messenger RNA Stability ed. Brawerman G, Belasco J, San Diego, CA: Academic Press Inc. 1995:291-327.
2. Inohana J, Chiba T. Nishichiba S. The ribosome and its synthesis. In: The Molecular and Cellular Biology of the Yeast Saccharomyces: Genome Dynamics, Protein Synthesis and Energetics. vol.1, ed. Broach JR, Pringle JR, Jones EW, Cold Spring Harbor, NY: Cold Spring Harbor Laboratory Press, 1997:587-626.
3. 千葉太郎 心肺運動負荷テスト. 運動と呼吸, 亥鼻次郎編, 南江堂, 東京, 1996:1-10.
4. 西千葉三郎, 千葉太郎 レセプター遺伝子の発現と合成, レセプター: 基礎と臨床, 松戸四郎編, 朝倉書店, 東京, 1997:92-105.

D. 知的財産・標準化規格に関するもの

1. 特願 20XX-123456 号「○○○○○○○○○○○○」(20XX 年 X 月 X 日出願)
全発明者氏名：亥鼻次郎，千葉太郎
権利者：国立大学法人千葉大学
2. 特許第 123456 号 (日本国)「○○○○○○○○○○○○」(20XX 年 X 月 X 日出願，20XX 年 X 月 X 日登録)
全発明者氏名：千葉太郎，亥鼻次郎
権利者：国立大学法人千葉大学
3. Patent No: EP 123456 (欧州)「○○○○○○○○○○○○」(20XX 年 X 月 X 日出願，20XX 年 X 月 X 日登録)
全発明者氏名：亥鼻次郎，千葉太郎，西千葉三郎
権利者：国立大学法人千葉大学
4. IEC 60601-2-76:2018 Particular requirements for the basic safety and essential performance of low energy ionized gas haemostasis equipment TC/SC 62D, Expert

E. 学会発表

a. 特別講演・シンポジウム

1. Chiba T, Inohana J, Nishichiba S. Fetal cells in maternal blood: frequencies measured by the polymerase chain reaction (PCR) and in situ hybridization. 8th International Congress of Human Genetics Symposium. 1996 (Am.J.Hum.Genet.Suppl.1996;49:210-1.)
2. 千葉太郎 XYZ 症候群と精神障害. 第 85 回日本解剖学会総会. 1997 (解剖誌.1998;10:379-80.)

b. 一般発表

1. 亥鼻次郎，千葉太郎 食道静脈瘤の外科的治療. 第 81 回日本消化器病学会. 1996 (日消会誌. 1997;54:46.)
2. 亥鼻次郎，西千葉三郎，千葉太郎，松戸四郎 食道静脈瘤外科的治療における腹水の意義と管理. 第 82 回日本消化器病学会. 2000 (日消会誌. 2000;56:345.)
3. 千葉太郎，亥鼻次郎 運動初期の換気亢進の検討. 第 71 回日本生理学会大会. 2000 (日生会誌.印刷中)

F. 研究助成金取得状況

a. 文部科学省 (文部省) 科学研究費

- 一般研究 (B) 「遺伝子発現，蛋白質合成及び構造形成の機構」研究代表者，1995-1996 年
【助成額＝ 】
- 一般研究 (A) 「○○○に関する細胞生物学的研究」研究代表者，1997-1999 年【助成額
＝ 】
- 試験研究 (B) (2) 「○○○に関する研究」研究分担者 (研究代表者 ○○大学 大沢三郎)，1994-1995 年【助成額＝ 】

重点領域研究 (2) 「〇〇〇に関する基礎的研究」研究分担者 (研究代表者 △△大学 齋藤五郎), 1997-1999 年 (1997・1998・1999 年度文部省科学研究費補助金重点領域研究 (2) 研究報告書. 2000:708-11.) 【助成額= 】

b. 省庁及びその所管する独立行政法人 (NEDO, AMED, JST 等) の公的研究費

精神・神経疾患研究委託費 「〇〇〇に関する研究」研究分担者 (研究代表者 ××大学 小杉六郎), 1994-1996 年 (厚生省精神・神経疾患研究委託費平成元年報告書. 1995:63-7. 1995 年報告書. 1996:50-5. 1996 年報告書. 1997:53-8.) 【助成額= 】

次世代人工知能・ロボット中核技術開発 「〇〇〇〇〇の調査研究」研究代表者, 2016-2017 年 (新エネルギー・産業技術総合開発機構成果報告書 2016-2017: P 11111) 【助成額= 】

c. その他 (企業等との共同・受託研究費、財団等の助成金 等)

受託研究費 「〇〇〇〇〇〇についての研究」研究代表者 (△△製薬) 【助成額= 】
Muscular Dystrophy Association "Neuronal control of postsynaptic muscle protein".
1997-1999. (Annual Report. 1997:105-10, 1998:150-5, 1999:161-5.)

〇〇記念財団自然科学研究 「〇〇〇に関する研究」研究代表者 (〇〇記念財団自然科学研究報告書 1997:187-9.) 【助成額= 】